

四国こどもとおとなの医療センター
疼痛医療センター科長

川崎元敬氏

香川の医療最前線

570



●かわさき・もつひろ 1996年高知医科大学医学部卒。米国のテキサス大医学部研究員、高知大医学部整形外科講師などを経て今年4月から現職。整形外科専門医、リハビリテーション科専門医、脊椎骨髄外科専門医がん治療認定医、スポーツドクター。丸亀市出身。49歳。

治療法は。

主なものとして薬物療法、インターベンショナル治療が挙げられる。これらと併せて、運動療法や心理療法、必要な場合には手術も行う。薬物療法では、予想される痛みの原因に対する薬を選び、調整する。インターベンショナル治療で

どのホルモンが出るかが研究で分かっており、ウオーキングなどのリハビリテーションで痛みを改善する。

心理療法では自身の抱える痛みの特徴を学ぶなどし、慢性痛への抵抗感を軽減する。手術では、治りにくい腰下肢痛に対して、神経近辺に特殊なカテーテルを通して薬液を投与する。癒着を剥離する硬膜外腔癒着剥離術もある。近年は、

■ 四国こどもとおとなの医療センター 疼痛医療センター

患者に適した対処法を導き、症状を和らげられるよう治療している。
所在地：普通寺市仙遊町2-1-1
電話：0877(62)1000
https://shikoku-mc.hosp.go.jp/section/center_pain.html

腰や肩、関節などが慢性的に痛む慢性痛。痛みを見越してしまっていると悪化するケースもある。四国こどもとおとなの医療センター疼痛医療センターの川崎元敬科長に同センターの診療の特徴などを聞いた。

慢性痛とは。

痛みが3カ月以上続く状態を表し、集中力の低下やイライラするなど日常生活に支障をきたす。痛み不安や恐怖を覚えて体を動かす機会が減り、さらに悪化する。骨折や心筋梗塞など重大な疾患が要因の場合もある。幅広い可能性を考えたがら診察している。

慢性痛の治療

科超え横断的に診療

より負担少ない方法模索

原因は。大きく三つに分けられる。一つ目は打撲や炎症などにより、神経組織以外

障害で生じる侵害受容性疼痛。二つ目はけがや糖尿病などで体性感覚神経が傷ついて発生する神経障害性疼痛。三つ目は、前述した疼痛のような原因がなく痛覚の変化や変調によって起こる痛覚変調性疼痛。また、ストレスや不安などの心理

が複合的に関わり合っているケースが多く、原因が明らかでない痛みもあるため、患者が複数の医療機関を受診する「ドクターショッピング」に陥るリスクもある。適切な診察をしてくれるところを見つけるのが重要だ。

は、神経やその近くに薬を注入。痛みの伝達を遮断する神経ブロック注射などを超音波検査画像を見ながら行うことで、より正確な注射ができるようになった。次に、運動療法について。有酸素運動をすると痛みを和らげるエンドルフィンな

おり、当院でも行っている。慢性痛医療センターではどのような診療を行っているのか。

慢性痛の主な原因

- 侵害受容性疼痛
- 神経障害性疼痛
- 痛覚変調性疼痛

◆ 心理的、社会的要因でさらに痛みを強く感じる

◆ それぞれの原因が複合的に関わり合うことが多い

急性期の痛みを和らげる治療だけでなく、慢性痛のさまざまな原因を考えて総合的に治療をして、患者が元の日常生活を送れるようにするのが役目。当院は、2019年に国立病院機構では全国で初めて、診療科や職種を超えて横断的に診療できる体制を整備した。慢性痛の原因はさまざまです。麻酔科医をはじめとした他の診療科や、理学療法士などそれぞれの痛み合った専門家とともに、体への負担が少なく効果的な治療法を模索し、患者の生活がより良くなるよう働き掛けている。